

大原中だより

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397
FAX 048-835-1357
第 7 号

校 訓 「歴史を拓く」

学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校 令和 2年 9月 1日 (火)

メールアドレス: ohara-j@saitama-city.ed.jp ホームページ: http://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

『準優勝と2番』

校長 小熊 誠

9月が始まりました。相変わらずの猛暑の中、生徒達は、日々右のスローガンの下、コロナウイルスの予防・拡散防止そして熱中症予防を最大限に体育祭や新人戦に向けて「笑舞」できるように「一瞬」を大切に全力で勝負しています。勝負に勝ち負けは付き物です。そこで今号では、皆様と一緒に『準優勝と2番』について考えてみようと思います。



私は21年間陸上部の顧問を務め、生徒達に恵まれ全国大会15回、入賞者12名という結果を残すことができました。その中で生徒達が2位という順位を3回獲得しました。1回目は、「全国制覇」を目標に年間ほとんど休まず生徒と共に練習していたときの200mの女子です。レースが終わり戻ってきた彼女が最初に私に話した言葉は「先生、すいません。」でした。私は「おめでとう。」と言えませんでした。彼女は高3のインターハイでも2位でした。私に「先生、すいませんまた2番でした。」と連絡をくれました。彼女はその後実業団に進み世界を転戦し、オリンピックを目指しましたがまた2位で代表の座を掴めず引退しました。2回目は、「天下無敵」を目標にチームで全国優勝を獲りに行っていたときの1500mの男子です。ラスト1mまでトップでしたが最後にかわされました。彼はその場で泣きじゃくり立ち上がることができませんでした。仲間に支えられ私のところに来たとき、やっと口にしたのは「先生、悔しい。」という言葉でした。私はここでも「おめでとう。」と言えませんでした。彼はここで優勝し、陸上を辞めるつもりでしたが、高校でも陸上を続け都大路を3回走り、現在も陸上に携わる仕事(理学療法士)をしています。3回目は、「日本一の仲間と日本一の練習をして日本一になろう」を目標に100人を超える部員を種目毎に生徒の主体性を中心に活動していたときの400mRの男子チームです。彼らは、満面の笑顔で「先生やりました。準優勝です。」と抱き着いてきました。私は初めて「おめでとう。」と4人と握手をしました。4名とも陸上を続けたのは高校まででした。お気づきの通り、「準優勝」と言ってきたのは、リレーチームのメンバーだけです。結果は3つとも本当に素晴らしい全国準優勝です。しかし、他の2人にとってはただの2番目だったのです。同じ2位、でも2番目と準優勝なのです。今もこの生徒達とはその時の話をします。200mの女子は、「嬉しかった、けど2番目なんです。何かモヤモヤでした。でもおかげでオリンピックには出られませんでした。日本代表まで行けました。」と話します。彼女は2番をバネに努力を積み重ねることができました。1500mの男子は「あの時は優勝以外頭になかったの、悔しさだけでちっとも嬉しくありませんでした。でも仲間の有難さを感じました。」と話します。彼は2番をきっかけに仲間の大切さを知りました。400mRのメンバーは「すごく満足です。でも燃え尽きた感がありました。大きな宝物です。」と話します。彼らは準優勝により努力は報われるという達成感を掴みました。果たして、彼らの2番・準優勝という結果が、捉え方が良かったのかどうか？私の彼らへの目標の持たせ方や言葉かけがベストだったのかどうか？私には今も分かりません。しかし、彼らの人生に大きな足跡を残した事だけは確かです。

私達は先生です。私達の生徒達への目標の持たせ方や接し方、言葉かけ一つが生徒達の未来に大きな影響を与えます。すごく責任は重いですが、やりがいのある仕事だと思っています。前回のリオのオリンピック200m平泳ぎの金藤選手が優勝直後に最初に口にした「先生を信じて良かった」という言葉が未だに忘れられません。先生冥利につける言葉です。私達教職員一同「先生を信じて良かった」「大原中を信じて良かった」と一人でも多くの生徒・保護者・地域の皆様に言っただけのよう尽力して参ります。学校・生徒・保護者・地域の皆様がさらに信頼を深め、同じ方向を目指したとき、より大きな成果が生まれるはず。どうぞより一層の温かい御理解と御協力、そして御支援をよろしくお願いいたします。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校